

# 平成22年度事業計画

## <一般事業>

### 1 持続可能な環境への取り組み

「もったいない総研」は、北九州活性化協議会の設立10周年記念事業として立ち上げたものであり、世界の環境首都を目指す北九州においてリーディングコアとなることを目指した活動を行います。また、北九州市が「環境モデル都市」行動計画に対して協働と支援を行います。

#### 1-1 もったいないスクール2010

もったいない総研は、2005年度より、子供たちを対象とした環境教育に取り組んでいます。今年度は、(社)北九州青年会議所と協働で、「北九州ドリームサミット2010」を開催します。北九州市内の中学生が、自分たちのまちの環境問題を見つめ、必要なものは何なのかを考え、行動を起こし、結果を発表することで、市民に自分達のまちの環境の大切さを伝えていく。この活動に参加した子どもたちが、北九州の未来を担う人材となり、このまち全体の環境意識の向上を目指します。

①対象 市内の中学2年生他

②他の共催 北九州市

③後援 北九州教育委員会

④テーマ 環境全般

⑤活動内容

●募集【平成22年2月26日～平成22年3月26日】

・継承会議【開催時期：平成22年4月17日（土）】

昨年度KDSを経験した子どもたちと、今年新たにこの活動に参加する子どもたちとを引き合わせ、取り組む課題の目標を掲げてもらいます。

●個別活動【開催時期：平成22年5月初旬から7月中旬】

継承会議にて決まった活動内容を実践します。この活動をすることで、地域の人たちとの交流を深め、環境問題だけでなく、コミュニケーションの大切さを理解し、まちへの愛着をもってもらいます。

●発信会議【開催時期：平成22年8月中旬～下旬】

活動してきたことをまとめ、これを発表する場を設けます。子どもたちの活動内容を、多くの人に聞いてもらうことで、多くの共感を得てもらい、市民全体が環境問題への意識を高めてもらいます。

●本会議【開催時期：平成22年10月中旬】

多くの活動を通して、子どもたちが北九州というまちへの思いをまとめ、これを提言書にまとめ、まちへ発信していきます。

1-2 もったいない精神（こころ）の普及

“もったいない精神(こころ)” 提唱の先駆者として、様々な視点から調査・研究を行い、市民生活にフィットした活動を展開し、“もったいない精神(こころ)” の普及を図ります。

(1) 環境作文の募集

環境作文事業を、北九州市PTA協議会と共催で実施します。

①対象 市内全体の小学校、中学校において、小学5年生、中学2年生を対象とします。

②テーマ 環境全般とします。

③スケジュール（予定）

- ・募集 平成22年6月
- ・応募締切 平成22年9月初め
- ・表彰式 平成22年10月

(2) 「北九州ブラックイルミネーション・リレー～キャンドル eco ナイト～」

環境省が呼び掛けている『CO2削減/ライトダウンキャンペーン』と、民間団体が実施している『百万人のキャンドルナイト』の趣旨に賛同し、平成20年度より本事業を実施しています。本事業では、照明の消灯とキャンドルの点灯を呼びかけます。

- ・実施時期 年2回（夏至と冬至）

(3) 年長者研修大学校での出前講座

北九州市立年長者研修大学校（周望学舎）において、平成19年度より開講した「暮らしと環境」講座において、もったいない総研の紹介とあわせて、リサイクルトイレットペーパー「えこっパー」等の活動を紹介します。

(4) 食と農のプロジェクト

オーガニック農園を中心に、農業経営者と市民、レストラン、ショップ、ネットワーク団体をつなぎ、この取り組みを伝えていながら、北九州の食と農の向上を図る活動を行います。

- ・主催イベント 講演会、セミナー、交流会など（年2～3回）
- ・支援プロジェクト 活動団体に対して広報などの支援を行う。

(5) 環境活動支援プロジェクト

北九州市内で環境活動を実施している団体・個人を支援します。

- ・対象 「環境活動を通して、未来の子供たちのために“今”で  
きることを実践している活動・事業
- ・支援内容 経費の支援、広報の支援（広報誌への掲載など）

(6) 北九州市 PTA 協議会への寄附

子供の環境教育の一助として、北九州市 PTA 協議会へ寄付する。

1-3 もったいない塾の開催

市民や企業の意識啓発と「世界の環境首都・北九州」の機運作りを目指して、もったいない塾を開催します。

(1) 「ラジオもったいない塾」

北九州シティ FM の環境番組「ガイアの風」にて、「ラジオもったいない塾」として、もったいない総研の活動などを紹介します。（月 1 回）

(2) 講演会またはセミナー

環境について考える機会を市民に提供します。

1-4 情報の受発信

市民の環境活動について情報収集を行い、もったいない総研と市民の活動とをあわせて、情報発信を行います。

- ・「もったいないスタイル」の発行（年 1 回、平成 23 年 3 月）

## 2 北九州におけるイノベーションと産学連携

ものづくりのまち北九州市は、1901 年の八幡製鐵所の操業開始以降、化学、硝子、機械、電機などの産業が生まれ、生産性向上、公害防止、省エネなど多くのイノベーションをとおして競争力を向上させてきました。BRICs など新興国が急速に台頭するグローバル時代の競争の中で、日本の高い競争力を維持するためにはイノベーションを継続していかなければなりません。そこで、KPEC は東田地区に建設された北九州イノベーションギャラリー(KIGS)の運営管理を継続し、イノベーションを担う高度技術者の育成とイノベーションにつなげる交流の場づくりに取り組んでおります。さらに、地元の大学と連携して、下記事業を進めます。

## 2-1 高度人材の確保・育成（継続）

イノベーション・システムの中における「大学」と「企業」の役割はそもそも異なるものであり、「産学連携」をとおして、知の融合と人の交流を行うことによって、それぞれの役割を相互に高めあう必要があり、これらを担う人材として、産学連携による基盤的・融合的な研究・教育をとおした高度な研究人材・技術人材の育成が求められています。

そこで、産学連携研究会（仮称）を設け、産学連携を通じた社会人の再教育・能力開発から、先進理論と多様な経験・知識を融合し、活用できる高度人材を育成する仕組みを検討する。さらに、インターンシップによる学生の実践訓練、地元企業への就職促進、産学の交流促進を進める仕組みについて検討する。

研究会名称：産学連携研究会（仮称）

委員長：九州工業大学 産学連携センター 特任教授 山崎 脛

## 3 次世代を担う人材の育成

複雑多様化している現在、地域社会に貢献できる人材育成がもっとも重要なテーマであると考えています。このテーマに対してKPECは、義務教育から大学及び社会人に至るまで幅広く、それぞれの世代に応じた取り組みを進め、地域社会に貢献できる人材の育成を目指します。

### 3-1 経済人による義務教育支援活動の研究

公立の小中学校の先生方が日常直面している種々の課題（たとえば所謂モンスターペアレンツ・チルドレン問題、学級崩壊問題、不登校問題）などから開放し、本来の教育に専念してもらうための環境作りに、経済人（経営者、従業員）がどのような支援活動を行え得るかを検討するため、義務教育支援活動研究会（仮称）を設けました。

この研究会では、教育環境改善に資する方策を研究、開発、実践に挑戦することで、義務教育現場をより正常化、活性化し、長期的に青少年の健全な育成を目指します。

研究会名称：義務教育支援活動研究会（仮称）

委員長：西鉄バス北九州（株） 代表取締役会長 久保祐二

### 3-2 学生による地場企業の紹介（僕らのハローワーク）

北九州市には優良企業が沢山あるにも関わらず、これらの企業に目を向ける

大学生は少ない。そこで、北九大と協働して、学生が自ら地元企業を取材し、企業のPRを検討し、企業紹介CDを作成し、近隣の学校に配布していきます。

当事業には、これから就職活動を始めようとする学生が参加しており、本活動において事前調査・取材・考察・討議を行い、ほぼゼロの状態から判断基準を形成しております。この段階で当事業に参加した学生は、経営者や若手社員との対話をとおり、地元企業に共感を抱き、魅力を感じ取っています。今後、これらの経験・知見などを活用し、本事業に活動に参加していない学生にも地場企業に目を向け、魅力を感じて頂くため、企業PR・情報提供を検討していきます。

### 3-3 ひまわり塾の開催

ひまわり塾は、企業人と北九州市職員が共同で北九州市のまちづくりについて、自主的に学習し考える自己啓発講座として、平成4年に開講したものです。

この「ひまわり塾」は、まちづくりについての学習、研究、実践を通じて、まちづくりに取り組む機運の醸成、地域経営に関する意識向上、およびヒューマンネットワークの形成を目的としています。

#### (1) 第18期「ひまわり塾」の開催

①主催 (財)北九州活性化協議会、北九州市

#### ②体制

- ・名誉塾長 北九州市長 北橋健治
- ・塾長 (財)北九州活性化協議会理事長 小嶋一碩
- ・コーディネーター  
北九州市企画文化局にぎわいづくり企画課長 古賀厚志  
(有)感動!ファクトリー 代表取締役 金丸勝利
- ・事務局 (財)北九州活性化協議会  
北九州市人材育成・女性活躍推進課

③対象 企業人15名程度、北九州市職員15名程度

#### ④活動概要

塾生が希望するテーマ別にグループ分けし、まちづくりに関する研究・企画・実践を行い、その成果を企画報告書にまとめ、企業・市の関係者を招いて発表会を開催する。官民1名ずつのコーディネーターが、講座において助言・指導を行う。また、グループ活動の進捗状況に合わせ、コーディネーターが推薦するまちづくり専門家による講義を行います。

⑤スケジュール (平成22年6月から平成23年5月の1年間)

・開講式 (平成22年6月)

第17期「ひまわり塾」閉講式の終了後に開催します。

- ・ 講座 （平成22年6月～平成23年5月）  
第1回講座は2日間の合宿研修とし、第2回以降は月1回定例講座を開催します。グループ単独でも活動を行います。
- ・ 閉講式 （平成23年6月）  
成果発表会に引き続き、閉講式を行います。

#### (2) ひまわり塾OB会

ひまわり塾卒塾生のさらなる活動を支援するため、ひまわり塾OB会の組織化を検討します。

## 4 北九州の都市格向上への取り組み

“都市格”とは都市の品格であり、文化、教育、景観、市民の意識など多様な要素から成り立っています。都市格の向上は「行ってみたいまち」、「住んでみたいまち」の形成に不可欠なことで、街の活性化のソフト的側面だと言えます。つまり都市の総合力である都市力は、経済力と都市格の両輪で計られるのではないのでしょうか？ そこでKPECは、都市格向上のための事業に取り組みます。

### 4-1 北九州市民まちづくり基金の研究

都市格を高めるには、各分野において、高いソフト力とそれらを担う人材を擁した民間の力が求められます。地域には多くのNPOやボランティアグループが活発な活動を行っていますが、その多くが活動資金不足に悩んでいるのが現状です。KPECは公益財団法人に認定されたので、寄付金に対する税の優遇措置が受けられ、幅広く企業、個人の浄財が集めやすくなった。そこで、都市格向上のための諸活動に対する活動資金提供を目的とした「北九州市民まちづくり基金」（仮称）の設立を図ります。

研究会名称：北九州市民まちづくり基金研究会（仮称）

委員長：NPO 法人 環境市民活動サポートセンター 理事長 三隅佳子

### 4-2 北九州ミュージックプロムナードの支援

多くの市民が楽しめるジャズを中心としたポピュラー音楽の演奏会について検討を重ね、平成8年に市民参加・手作り型の軽音楽フェスティバル「北九州ミュージックプロムナード」を開始しました。以後、市民が演奏者として、観客として、ボランティアとして参加、集い、楽しむ参加交流型ミュージックフェスティバル「北九州ミュージックプロムナード」は、毎年盛大に開催されています。今年度も、にぎわい・魅力造りの一環として、「北九州ミュージックプロムナード」を後援すると同時に、近隣を対象に発信していきます。

#### 4-3 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

平成19年北九州市への来訪者を増やし、にぎわいを創出することを目的に、ビジターズ・インダストリーを市民主導で推進するための機関として、北九州市にぎわいづくり懇話会が設置された。KPECは懇話会設置当初から、理事長が分科会（企画調整委員会）の委員長に就任、行政と協働でにぎわいづくりを推進します。

### 5 情報受発信・交流事業

#### 5-1 ABLEサロンの開催（継続）

会員の皆様とともに「時代の流れ」を知り、KPEC活動の方向性を探るとともに、出席者相互の交流、北九州活性化情報の受発信を行うため、通年事業の一つとして「ABLEサロン」を開催しています。

平成22年度も、喜んで参加していただけるような時宜を得た話題を取り上げ、必要により最新の話詳細な関係団体と協働し、会員の皆様と情報の共有化を図り、次の活動の方向性を探るとともに、出席者相互の交流を目指して3回程度の講演会を開催します。

- ①実施内容 : 講演会、見学会等
- ②実施時期 : 年間3回程度
- ③案内者 : 理事・監事、評議員、賛助会員等…約320人

#### 5-2 KPECニュースの発行

財団法人北九州活性化協議会として、積極的な情報公開と活動にご協力頂いている会員の皆さまへのサービスを目的に、北九州活性化協議会の活動内容、及び北九州市の出来事・トピックス等を、「KPECニュース」として発信しています。

平成22年度は次の予定で発行します。

- ①発行回数 : 3回/年
- ②発行時期及び発行部数

v o l	発行予定月	仕様	発行部数
51	H22年 5月	A4版16頁	1000部
52	H22年 8月	A4版16頁	1000部
53	H22年12月	A4版16頁	1000部

#### 5-3 情報受発信の強化

KPECの活動を適宜ホームページにて発信します。また、関連情報を収集し、必要により発信します。

#### 5-4 地域おこし研修交流

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」主催で、毎年2月下旬～3月に「福岡県地域おこし研修・交流会」が開催されています。この研修・交流会は、福岡県内の5つのブロック（筑豊、筑後、博多、北九州、京築）が順番に開催場所となり、それぞれの地域の活動内容を知るとともに、各団体が抱えている悩みや問題点を参加者全員で考え、活動の参考にしようという集いです。

当協議会は「北九州ブロック」世話役として、研修・交流会の開催方法やテーマ設定について、福岡県や関係団体と連携を図り、北九州ブロックの各団体との橋渡し役を果たします。



## 平成22年度事業計画

<北九州産業技術保存継承センター（略称：KIGS）事業>

### 【2期目の指定管理者運営について】

北九州産業技術保存継承センター（以下 KIGS）は、北九州市の「人材」「技術」「産業遺産」を活用し、人材育成・産業技術の保存継承・技術革新の機会創出を目的とする日本唯一の館として、平成19年4月にオープンした。（財）北九州活性化協議会は、当初から当館の指定管理者を受託し平成22年4月からは第2期目の運営にあたることになる。

この、2期目の運営においては第1期の経験を基に、日本唯一のコンセプトであるこの館の特徴を生かした運営を行いこの館の認知度を向上させます。

### 【事業】

#### I 企画展事業

- 1 春 『巡回展 『時代を生き抜く宝物たち』
- 2 夏 『自主企画展 （仮称）立体：3Dの夢・・・次元のイノベーション』
- 3 秋 『市民企画展 （仮称）市民の科学工作展』など
- 4 冬 検討中 『(仮称)国産カメラの100年史』など

#### II 調査研究事業

- 1 自主調査研究  
（予定）『特殊大型重量物の輸送技術の変遷』
- 2 委託研究  
（予定）『ユニバーサルデザインの視点からみた水廻り（トイレ）の変遷』
- 3 共同研究  
（予定）『国立科学博物館と共同：白熱電球の技術進歩に関する系統化研究』
- 4 その他  
『過去3年間の指定管理者受託中の研究成果物の要約英文化、広報資料作成』

#### III 教育普及事業

- 1 イノベーションフォーラム
- 2 企画展連動講演会他イベント実施（春・夏・秋・冬）
- 3 技術革新講座（予定・・・全体テーマはエコエネルギー）
  - ① 日本版スマートグリッド（ELパワー）
  - ② リチウムイオン電池の開発と今後の動向（旭化成）
  - ③ インバータの最新技術（安川電機）
  - ④ 太陽電池の最新技術 ソーラ、ロードマップ（NEDO）
  - ⑤ 家の中のエコエネルギー生活（西部ガス）
  - ⑥ 水素社会の展望（調整中）
- 4 デザイン講座（詳細検討中・・・全体テーマは情報デザイン）
- 5 ものづくりの心 講座  
（工業高校生にもものづくりの心の伝承、地場企業の実践紹介）
- 6 工房塾  
（若手技術者や工業高校生を対象に、北九州マイスターの技術を実演、継承を目指す）
- 7 調査研究報告会（研究成果の報告会の実施）

#### IV その他教育普及プログラム

##### 1 ワークショップ

###### ① K I G Sプロジェクト

(若手技術者らによるチームを作り創造的ものづくりに挑戦する)

###### ② K I G S倶楽部

(市民を対象にもものづくりやデザインの実践のコースを実施する)

##### 2 イベント

(東田サマースクール、イノベーションツアー、子供工作教室、ものづくり秋の祭典  
K I G Sツアー、産業映像上映会他)

##### 3 団体向け講習 (企業団体向け、学校向け)

#### V 映像製作事業

##### 1 大型重量物輸送技術の変遷 【(株)山丸】

以上

## 7、北九州市域まちづくり推進のため商工会議所への寄付金贈呈の件

北九州商工会議所は北九州市の活性化のため多岐に渡る事業を展開している。その中で、平成 22 年度商工会議所の事業推進のため、北九州市域の経済界の集まりである当協議会に対し、下記事業についてその活動資金としての支援を要請された。

### 【商工会議所の要請】

- 1 商工会議所は、昭和 28 年制定の商工会議所法に基づいて設立された地域総合経済団体で、市を単位とする「地域性」、商工業の総合的な改革発達を図る「公共性」、様々な業種・業態の会員がいる「総合性」、また世界のほとんどの国に存在する「国際性」の 4 つの大きな特徴をもっている公益法人である。
- 2 北九州商工会議所は、昭和 38 年 9 月、旧五商工会議所の対等合併により誕生し、地域のオピニオンリーダーとしての意見活動をはじめ、街の賑わいを創出するための商店街の活性化事業、あるいは地域資源の活用した産業の育成、観光の推進、中小企業の育成・支援などに積極的に取り組んでいる。
- 3 特に平成 20 年度からは、疲弊が進む中心商店街の活性化を図るために、小倉・黒崎両地区に中心市街地活性化協議会を組織して、タウンマネージャーを配置し、空き店舗対策事業、集客のための各種イベント事業を展開してまちづくりを推進している。  
また、北九州が有する各種の地域資源を活用した「食」のブランド認定事業の実施やスイーツ産業の支援、そして文化スポーツの振興によって工業都市のイメージから新しい都市ブランドイメージを構築するための諸事業を展開している。
- 4 平成 22 年度の主な事業として下記の事業を推進するが、その事業資金が不足であることから、地元経済界の法人である、(公財)北九州活性化協議会からの支援を要請する。
  - ①商店街の活性化と環境モデル都市の推進
  - ②地域資源を生かした産業と観光の推進

支援金要請額 6,000 万円 / 平成 22 年度

### 【当協議会の検討・提案】

- 1 商工会議所の事業は当協議会の活動目的と一致している
- 2 活動が高齢社会の到来に備え、地場商店街で高齢者が自由に行動できる、

安心・安全なまちづくりをするものである。

- 3 単に商店街活性化だけでなく、若者が集まる可能性があるスポーツ文化を含めた、市民全体を考えたまちづくり構想である。
- 4 この事業を、今協力して地域の活性化を進めなければ人口減少と少子高齢化が進む北九州市の今後に対応できない。
- 5 現状の経済状況を考えるとき、事業推進にかかる経費を地元経済から供出できる余力がない。

このような状況を鑑みたとき、商工会議所の要請に基づき支援（寄付金）を拠出することを提案する。

以上